

平成24年 ローソクボツケ分布量調査結果速報 (1)

北海道立総合研究機構稚内水産試験場調査研究部 電話：0162-32-7166

- ・ローソクボツケの採集量は少なめ
- ・平均サイズは調査開始以降で最大

稚内水試では試験調査船北洋丸により、2003年以降、毎年9～11月に稚内ノース場(811, 812, 813漁区)で着底トロールによるローソクボツケ(0歳魚)の分布量調査を行っています(図1)。調査の目的は、新しく資源として加わる0歳魚の資源豊度を早期に評価し、資源の将来予測に役立てることです。調査では各漁区で原則2回の曳網を行い、その採集量と平均体長から評価しています。2012年9月3～6日および10月2～4日に第1次(9月)および第2次(10月)ローソクボツケ分布量調査を実施しましたので、その概況を報告します。

図2に2009年から2012年までに稚内ノース場で採集されたホツケの体長組成を示しました(図2)。今年の9月の調査では体長24cm未満のローソクボツケが1歳以上と同程度の尾数が漁獲されましたが、10月の調査ではローソクボツケの漁獲は少なく、ほとんどが1歳以上と思われる体長25cm以上のホツケでした。曳網1マイル当たりのローソクボツケの平均漁獲量(kg/N.M.)は、9月は5.8、10月は2.3(暫定値)(表1)で、これまで10回おこなった調査の中で9月は7番目、10月は8番目と、低い値でした。

調査年	9月	10月	11月
2003	71.0	147.7	未実施
2004	1.6	22.8	未実施
2005	114.2	185.9	未実施
2006	0.0	0.1	312.6
2007	23.6	213.6	121.5
2008	19.9	18.4	794.9
2009	75.3	107.6	218.4
2010	5.1	0.1	6.8
2011	46.2	7.1	8.4
2012	5.8	2.3 (暫定)	

表1. 1マイル当たり0歳魚の平均採集量(kg/N.M)

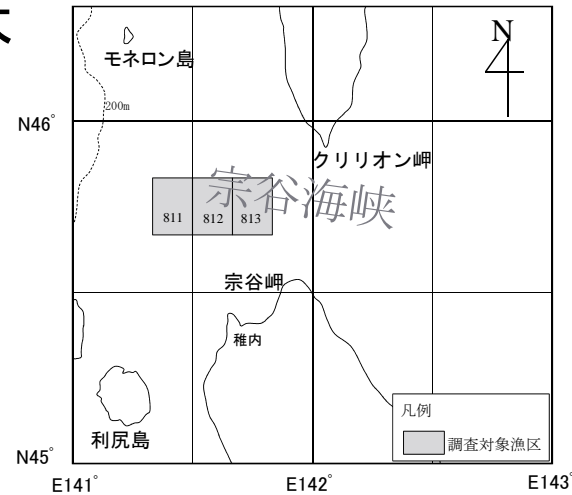


図1. 調査海域

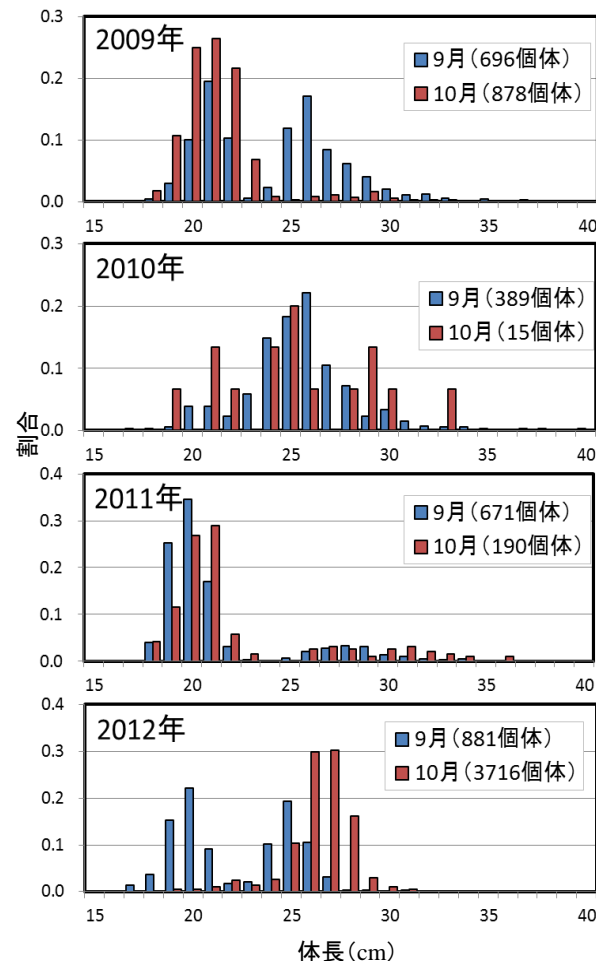


図2. 採集されたホツケの体長組成

- ・また、これまで10月の調査では0歳魚の平均体長が小さいほどその年級群の資源豊度が高いという関係が見られています(図3, 4)。年級群豊度が高いほど、餌当たりが悪くなって成長が遅れることからこの関係が見られると考えられています。
- ・今年の10月のローソクボツケの平均体長(暫定値)は220mmで、調査を始めて以降では最大になりました。

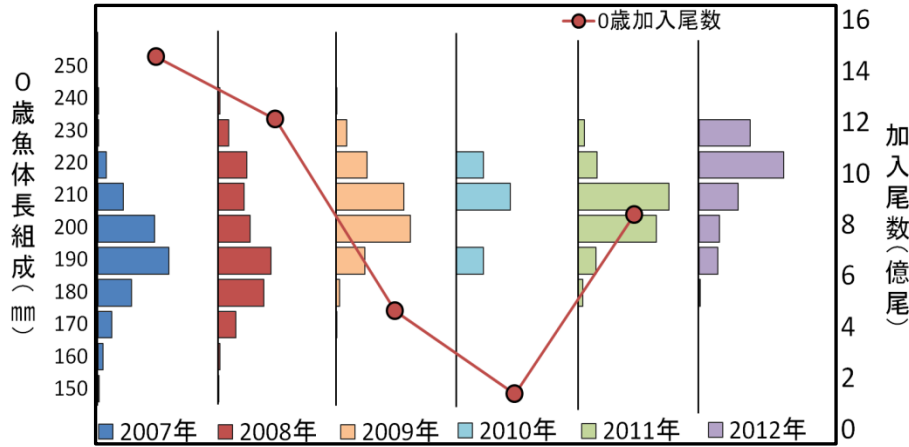
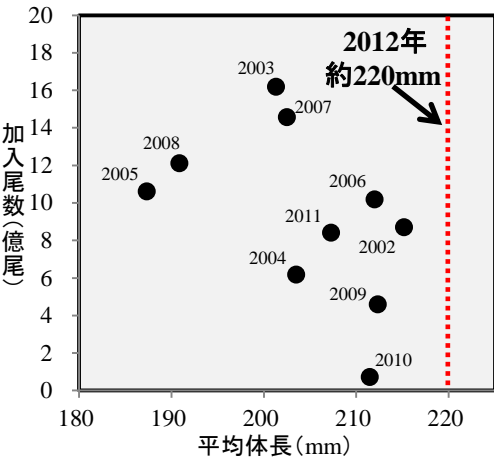


図3. 0歳魚の平均体長と加入尾数
(プロットの横の数字は、年級群を示します)

図4. 10月0歳魚の体長組成と加入尾数

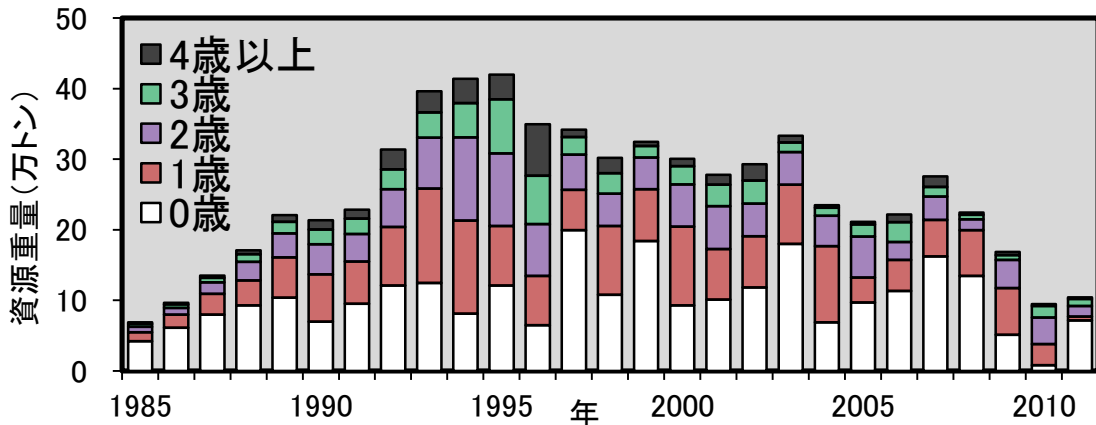


図5. 道北海域におけるホツケ資源重量の推移

- ・現時点の結果からは2012年生まれの年級群豊度は低いと考えられます。しかし、2006年のように来遊が遅かった年もあるので、11月の調査結果や今後の各種漁業における漁獲状況等も考慮して判断していきます。
- ・近年急激に資源状態の悪化した(図5)ホツケの資源を回復させるためには、若齢魚を取り残して産卵親魚を確保することが大切であり、そのためにも、ローソクボツケの漁獲には十分な注意が必要と考えます。